

C.COM

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

JUNE.2014 VOL.46

広島県生活協同組合連合会
発行 2014年6月20日



特集：市民の集い

2014「戦争も核兵器もない平和な世界を」

- ・市民の集い 1
- ・情勢報告・活動報告 2
- ・被爆者の証言 3・4
- ・実行委員会構成市民6団体アピール 5
- ・広島平和文化センター 平和活動交流 6

会員だより

- ・「事業改革に挑む」 7
竹原生協 武田孝治理事長
- ・「日常を見つめて」 8
広島県高校生協 高橋幸博専務理事

事務局だより

- 夏の平和の取り組み 9
- ・2014ピースアクションinヒロシマ
2014 市民平和行進
- ・福祉・介護委員会報告 10
- 組織委員会報告
- 地域活性化研究会報告
- 理事会報告

『日々のことから』 11

- 広島中央保健生協理事長
- 消費者ネット広島理事長
- 吉富啓一郎
- 編集室から



特集

市民の集い

戦争も

核兵器もない

平和な

世界を――

心から願う

ヒロシマの思い

核兵器廃絶へ

市民の集い

2014「戦争も核兵器もない平和な世界を」と願う市民の集いが、さる5月23日（金）に、広島市中区広島市まちづくり市民交流プラザで開催されました。広島県原爆被害者団体協議会、広島県原爆被害者団体協議会、広島県地域女性団体連絡協議会、広島YMCA、広島県青年連合会、広島県生活協同組合連合会の市民6団体が主催する市民の集いは、広島県内17自治体（9市8町）職員の皆さん、生協ひろしまなど県内の生協の組合員役職員、今年初めて参加した全国8府県の生協組合員役

職員、合計160人が参加。報道各社も大勢取材に駆けつけ、会場は独特の雰囲気と熱気に包まれました。

市民の集いは、主催者代表広島県生協連岡村会長理事の挨拶に始まり、続いて広島県湯崎知事の挨拶代読、来賓の日本生活協同組合連合会和田専務理事の言葉がありました。

次に（公財）広島平和文化センター・湯浅常務理事・広島県地域政策局平和推進プロジェクト・チーム中島担当課長の情勢報告、広島県生活協同組合連合会川本理事の活動報告がなされました。



来賓を代表して言葉を述べる日本生活協同組合連合会和田専務理事



湯崎広島県知事の言葉を代読する広島県地域政策局村上国際部長



開会の挨拶をする広島県生協連岡村会長理事



司会進行の上田久子さん

「戦争も核兵器もない平和な世界を」生協ひろしま虹のコラスによる合唱で幕開けされました

「情勢・活動報告」：市民の集い



熱心に取材撮影をする報道各社



情勢報告をする広島平和文化センター湯浅敏郎常務理事

情勢報告

人類最初の核兵器による惨禍を被ったヒロシマ。市民6団体は、このヒロシマにあつて今日の世界情勢を憂え、「戦争も核兵器もない平和な世界を」という思いを込めて、この市民の集いを開催しました。

市民の集い実行委員会は、被爆の証言に先立って、まずその活動と現況を報告しました。

現在の情勢報告を広島平和文化センター湯浅敏郎常務理事は、「2015年 NPT 再検討会議に向けて」と題して、世界の核兵器の状況とNPT(核不拡散条約)について最初に説明。続いて、湯浅氏は、核軍縮

中島課長は、5つの構想内容を紹介しながら、ひろしまの2つのシンボル性、広島市の平和構築資源を強調し、オールひろしまで平和への取組が必要だと強調しました。そして、最終的には、平和の構築は安定した社会づくりが重要であり、広島県と広島市の連携がもっとも重要事項だということを力説しました。

の為にどうしたら良いかということを7つの項目をあげて説明しました。最後に、平和首長会議が掲げる2020年ビジョンの取り組みを紹介し、核兵器廃絶に向けての具体策で締めくくりました。

続いて「国際平和拠点ひろしま構想の取組」と題して、広島県地域政策局平和推進プロジェクト・チーム中島担当課長による情勢報告がありました。



情勢報告をする広島県中島充人担当課長



1年間の活動報告をする広島県生活協同組合連合会川本信枝理事

川本理事は、前年度の市民の集いの報告、市民平和行進、そして実行委員会市民6団体の平和の取組を映像をまじえて紹介。続いて、8月6日の前日のピースアクションinヒロシマ虹のひろばで、書道パフォーマンスが好評を博したこと、また、「子ども碑めぐりガイド」が大きな話題を呼んだことを述べました。また、平和ミニコンサート、折り鶴企画、ピースナイターなどが成功裏に終わったことを紹介しました。

活動報告

報告の最後は、「2013年度平和活動の振り返り」と題して、広島県生協連川本信枝理事が発表しました。



会場奥に展示された核兵器に関する記事や写真



大勢の報道陣が詰めかけた会場風景



情勢報告・活動報告の会場風景

「被爆の証言」：市民の集い

この恐怖と苦しみは体験した者にしか：



被爆の証言をする吉岡幸雄さん



被爆の証言をする坪井直さん



被爆の証言をする大越和郎さん



被爆の証言をする箕牧智之さん



被爆の証言をする川崎巳代治さん



被爆の証言をする平野貞男さん



1977年に市民6団体の連帯が始まり、今年で4回目を迎える市民の集い。この集いの趣旨は、日常の暮らしの中から平和を考え行動し、様々な団体が思想信条の違いを超え連帯し、「戦争も核兵器もない平和な世界」を実現することです。

第4回を数える今回の市民の集いは、13名の被爆の証言者を迎え、その体験談をお聴きしました。

「被爆の体験を聴く」といっても、そのあまりにも悲惨な実態に多くの被爆者はこれまでその口を閉ざしてきました。ここに出席された13名の被爆の証言者は、心から世界平和を願う人たちです。

13のテーブルに分かれた被爆の証言者を、6団体関係者（10名前後）が同席し、証言をお聴きしました。

ある人は、自分が体験した原爆の光と音の凄まじさを言葉によって表現されます。そして、一つのクラスの中で、自分だけが助かったという辛い思いを口にされます。

別の証言者は、広島市の当時の地図と爆心地からの熱線と放

「被爆の証言」：市民の集い



被爆の証言をする矢野美耶子さん



被爆の証言をする佐久間邦彦さん



被爆の証言をする高東征二さん



被爆の証言をする森田節子さん



被爆の証言をする山本明子さん



被爆の証言をする伊藤佐津子さん

核兵器の恐ろしさを語り続けて…

射能の影響範囲を示した地図を示しながら、核兵器の威力と残忍さを語ります。また、広島、長崎の原爆投下後、東西冷戦時のアメリカとソビエト連邦の原水爆実験の回数、そして放射能汚染についてもその危険性を訴えられました。

原爆投下の日の朝、「行きます」と家を出た家族が二度と帰って来なかった悲しみ、ま



被爆の証言をする高品健二さんのテーブル

た、一家の中で自分だけが生き残ったという過酷さとその後の人生。原爆は人間のその後の人生をも奪う恐ろしい、絶対悪だという証言者の言葉に、同席者の顔が重く沈みます。それぞれのテーブルで語られる13人の被爆の証言者の言葉は、平和を願う心の現れとして、同席した者の心を強く打ち、平和への誓いを新たにしました。

実行委員会構成市民6団体アピール

2014「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い アピール



市民の集い会場



閉会挨拶をする広島 YMCA 中奥岳生事務局次長



会場風景



アピールを読み上げる実行委員上田順子さん

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分
その日は、いつもと変わらない夏のぎらぎらとした朝でした。突然の閃光は、一瞬にして普段の暮らし、そしてかけがえのない家族や友人を奪いました。当時「何が起ったか」多くの人は知ることもなく、尊い命が失われたのです。生き残った被爆者の皆さんは、その戦慄と悲慘さを再び繰り返してはならないと、核兵器廃絶に向けた心の底からの願いを自らの体験を通じて発信されています。被爆者の平均年齢は78歳を超えました。しかし残念なことに、未だ地球上に1万7000発以上の核兵器が存在し、広島型原子爆弾の一千倍とも言われる威力を持ったものもあります。一瞬にして地球を廃墟にする兵器と私たちは隣り合わせに暮らしているのです。

核兵器があれば、それを使用することを前提とした「核」の緊張感が持続します。抑止力論は、脅威と脅しの連鎖の中でしるぎ合うものです。米ソの冷戦時代には、2000回以上の核実験と20回を超える核使用の危機がありました。核保有国がある限り、その危険に際限はありません。

こうした中、日本政府は、昨年10月の国連総会第1委員会で、「核兵器の非人道性と不使用を訴える共同声明」に署名しました。これは「意義ある第一歩」であり、NPT（軍縮・不拡散イニシアティブ）外相会合が、今年4月被爆地広島で開催されたことも、核兵器廃絶に向けて意義あることでした。また、先日ニューヨークで開催された2015年NPT（核不拡散条約）再検討会議第3回準備委員会に、被爆地の想いを胸に湯崎広島県知事と松井広島市長がそろって出席したことは、多くの人の核兵器廃絶への共鳴に繋がりました。

2015年春には、5年に1回のNPT再検討会議がニューヨークの国連本部で開催されます。その時、被爆者の皆さんは、老いた身体と向き合いながら、勇気をもつて渡航され、世界に向けて核兵器廃絶と次世代へのメッセージを伝えられます。私たちは被爆者の皆さんをサポートし、平和都市広島への心を世界に広げたいと思います。

皆さん、核兵器は「絶対悪」であり、私たちの世代において核の時代を終わらせなければなりません。そのためには、人間の尊厳を土台に、多様な団体や市民が、思想信条の違いを超え、異なる考え方を認め合い、力を寄せ合うことが重要です。

市民による「戦争も核兵器もない平和な世界」の実現に向けて、世論形成を広げていくために、私たち6団体は以下のことを決議します。

1. 私たちは、2015年NPT再検討会議の成功に向け、市民の力を結集し、核兵器廃絶や武力紛争を阻止するため、大きな世論を形成する平和運動を推進します。
1. 私たちは、平和首長会議が提唱する「2020年までの核兵器廃絶」を目指して、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める署名を推進します。

2014年5月23日

「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い 実行委員会構成市民6団体

広島平和文化センター平和活動交流

交流



平和

広島原爆資料館見学の前に増田典之副館長から説明を受ける平和活動交流参加者



交流会の進行役広島県生協連高田喜専事務理事



自己紹介する岡山コープ山室誠統括と各生協平和交流参加者



報告する湯浅敏郎広島平和文化センター常務理事



日本生活協同組合連合会和田寿昭専務理事



愛媛県生協連本銅貴重専務理事（右）



自己紹介するララコープ水町初江会長



感謝の言葉を述べる広島県生協連岡村信秀会長理事



意見を述べる生協ひろしま林辰也理事長



交流会会場風景



交流会参加者

午前中の市民の集いに引き続き、午後からは平和文化センター研修室において、市民の集いに参加した全国生協関係者の交流会が開かれました。

平和公園内の一角を占める広島国際会議場3階の研修室に集った24名の参加者。会議進行役広島県生協連高田専務理事のリラクセスした言葉に、当初の緊張を和らげました。

交流会は、「ざつくばらんに！」の合い言葉のもと、日本生活協同組合連合会和田専務理事の挨拶に続いて、広島平和文化センター湯浅常務理事による「平和・核兵器に関する情勢報告」がなされました。

その後、これまでの経過に基づいて、各生協代表は互いに感想、意見、質問を交わしました。

交流会を終えた愛媛、大阪、長崎、岡山、広島の実協関係者は、「百聞は一見に如かず」の言葉通り、広島原爆資料館の見学の為に足を運びました。

原爆資料館東棟のロビーで記念館の増田典之副館長から館の概略の説明を受け、一行は音声ガイドの案内で、思い思いに資料館を見学、核兵器の悲惨さを改めて知らされたようです。

平和活動交流

事業改革に挑戦：竹原生協



竹原生協同組合理事長

武田 孝治

50周年をみんなで祝いました。(左) そめん流しで子ども大喜び(右)



農業体験ツアー



灯油車も活躍中



宅配センター

みんなで考え、みんなでやろう！

誕生50周年！

竹原生協は職域生協から地域生協へと発展し50年になります。この半世紀の間組合員サービスの向上に向け、様々な事業を行い、現在は4事業（宅配・店舗・燃料・共済）を中心に展開しております。

宅配をはじめとした各事業は、日本経済の高度成長と併せ供給高が右肩上がりでしたが、バブル崩壊後、宅配・店舗部門は利用組合員の減少により厳しい運営を強いられてきています。宅配は週1回の無料配達を経て、今日までに全国で唯一の週2回・配達料無料の宅配を続けていましたが、この度、事業継続のため厳しい判断となりましたが、手数料の徴収を7月分から行います。また新規事業として約3年半前より開始した夕食宅配は1日60〜65食と大きな変動もなく推移しています。

店舗も頑張ってます

店舗は当初新規出店も含め6店舗ありましたが、現在2店舗へと縮小し、他店との競合もあり事業継続が厳しさを増しています。その中でどうすれば事業継続できるのか、判断が難しい所ですが、今期は物業部門を中心とした事業拡大を計画しています。燃料部門はこの間の厳しい経営において生協運営に大きなウエイトを占めるに至ってい

ます。また組合員の安心・安全の確保に向け、LPGガスの集中監視システムを経済産業省の補助事業を活用して平成24年度に実施しました。共済事業も組合員に安心な生活を送っていたため、全部門での取り組みを継続して行っております。

現在、竹原市では全国的な傾向に歩を合わせるように緩やかな人口減が進んでいます。世代構成も高齢化が進み、一人暮らし・後期高齢者世帯の増加が進んでおり、地域の消費動向に大きく影響を与えております。

絆を取り戻そう！

更に半世紀の時の流れは、消費動向・生活環境の変化の中、生協が設立された本来の趣旨と乖離し、協同組合という組織の絆から自己解決へと変わりつつあります。しかし東日本大震災以降は、その絆を取り戻そうといった世論へと傾き始め、まさに生協の原点を見つめ直すべき情勢と言えます。生協運営の基盤は組合員であり、また消費者となる方々です。組合員のニーズにどう応え、どう対応するか。多様化する社会の中で、角度を変える事業展開をどう進めるか。『みんなで考え、みんなでやろう！』を合言葉として頑張っていきたいと思っております。

日常を見つめて…：高校生協



広島県高等学校生協専務理事

高橋 幸博

学校生協の役割について…

戦後の混乱期、相互扶助の精神が芽ばえた

敗戦直後の厳しいインフレのなかで教職員はじめすべての公務員には、自分と家族の生活を維持できるだけの賃金は支払われず、主食をはじめすべての生活必需品は「闇」でしか手に入らなかった時代でした。

本人はもちろん、家族の中に一人でも病人が出れば、その家族は破滅状態に陥ることは火を見るよりも明らかでした。

こうした厳しい状況の中で、生活を維持する頼みの綱は健康保険制度でした。

公立学校共済組合はこうした状況下で発足しました。しかし、当初の家族療養費の給付は50%であり、残りは組合員が負担することになっていました。この負担軽減のために教育職員互助組合が設立されました。いずれも生活を守るための強い要望を実現したものでした。

こうした動きのなかで、職員組合は厚生部を設置し、学校現場において欠乏・不足する物資を、学校で使う用紙や副読本の供給を開始しました。

1953年に広島教組が誕生

し、事業部を設置し、それまでの厚生部の事業を受け継ぎました。

また、1955年には教職員に生活必需品を廉価で購入できるように指定店供給を開始しました。

1957年1月に広島県高校生協の設立が広島県から認可され、広島教組事業部時代にもまして組合員に、カタログ供給を含め生活用品の供給を拡大するとともに、生命保険・損害保険の団体引去りを実施し、組合員のいのちとくらしを守り向上させる取り組みを拡充していきました。

1958年には広島県生活協同組合連合会及び日本生活協同組合連合会に加入し、翌年から自主供給活動を重点にすえて巡回供給を開始しました。

広島県高校生協は、以降、学校教育用品の販売とともに組合員及びその家族のいのちとくらしを守り、向上させる取り組みを追求してきました。

八割を超える生協加入率。その力を結集したい！

2013年度末の組合員の状

況は現職組合員5071人、継続（退職）組合員988人、合計6059人、現職者の81%が組合員です。

現状は、総組合員数と現職組合員数は減り続け、継続組合員数は増加しています。

物資が溢れ、ネット通販等の拡大など自主供給をめぐる環境や教職員の給与水準の変化等の中で、学校生活協同組合が果たしてきた役割、これからの活動がめざすものを明確にし、自助

増員の元遂によつて、経済力の強化をはかるよう福祉会館の建設を推進しよう。物価値上げに反対し、消費権を確立しよう。



総代会



商品活動



展示会

努力を補強するものとして共助の輪の拡大充実を図ることが求められています。まず私たち自身が日常行っている生協の活動に自信と誇りを持てるよう学習、振り返りを行い、その活動を生協への新規加入の取り組みにつなげていくことが必要です。数は力です。



夏の平和の取り組み



広島県生協連及び会員生協では、平和こそが豊かな暮らしと生協運動の発展の基と確信して、「平和とよりよき生活のために」を理念に、平和の取り組みを続けています。8月6日を前に、今年の夏もいろんな平和の取り組みが行われます。

今回の会報の特集で紹介しました『2014「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い』を5月に開催し、

7月に入ると2014市民平和行進、8月はピースアクションinヒロシマを開催します。

今年は、来年の2015年NPT（核不拡散条約）再検討会議の成功に向け、市民の力を結集し、

核兵器廃絶や武力紛争を阻止するため、大きな世論を形成する重要な年です。

核兵器禁止条約の交渉開始等を求める署名にも取り組みます。主な取り組みをご紹介します。



2014 市民平和行進

（主催：2014 市民平和行進広島県連絡会）

広島県内の市民6団体は、今から35年前の「折りづる平和行進」以来、一貫して「戦争も核兵器もない平和な世界の実現」をめざして、結束してきました。それは、核兵器がもつ非人道性、違法性と、人類と共存できない「絶対悪」である核兵器に未来は託せないという強い意志によります。今年もその思いを受け継ぎ、誰もが参加しやすい平和行進という形で平和を訴えます。

< 2014 市民平和行進広島県連絡会 構成市民6団体 >

広島県原爆被害者団体協議会、広島県原爆被害者団体協議会、
広島県地域女性団体連絡協議会、広島県青年連合会、
広島YMCA、広島県生活協同組合連合会

行進スケジュール

日	時	地 域	行進ルート
7月13日 (日)	9:30～出発式 9:45～10:40 行進	福山市	福山城公園～福山中央公園
7月25日 (金)	8:50～出発式 9:00～9:35 行進	廿日市市	さくらびあ～榎浦橋西詰～ さくらびあ
7月26日 (土)	10:30～出発式 11:10～12:10 行進	三次市	みよしまちづくりセンター～ みよしまちづくりセンター
7月27日 (日)	8:30～出発式 9:00～10:15 行進	東広島市	コープ東広島～コープ東広島
7月27日 (日)	9:00～出発式 9:05～9:45 行進 10:00～終結式	因島市	因島総合支所～労働会館
8月4日 (月)	10:00～出発式 10:30～11:20 行進 11:45～集結式	広島市	稲荷橋西詰～平和公園



2013 市民平和行進



2014 ピースアクションinヒロシマ

（主催 / 日本生協連・広島県生協連）

「継承と創造～ヒロシマから平和な未来を築こう！～」をテーマに、8月4～6日までの3日間、全国の生協組合員が広島に集い、虹のひろばへの参加や、碑めぐり、被爆の証言等、平和について学びます。

虹のひろば

■日 時：2014年8月5日（火）

13:10～16:10（開場 12:30）

■会 場：広島県立総合体育館 グリーンアリーナ

プログラム（予定）

時間

開 場

12:30～
13:10

「出店ブース」や「展示コーナー」を見ることができます。

虹のステージ

◆オープニング：『和☆ROCK』

◆主催者挨拶

◆広島市長ご挨拶（予定）

◆リレーメッセージ

被爆者代表→組合員代表→I PRAY

→大学生代表→子ども碑めぐりガイド

司会：玉田陽子さん

みんなのひろば

◆書道ガールズ：大書パフォーマンス

◆展示コーナー

・被団協「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」パネル展

・今年60周年を迎えるビキニ水爆実験に関するパネル展、他

◆出店ブースコーナー

～全国の生協や他団体の活動紹介～

◆参加型コーナー

・2020 ビジョン〇×クイズ

・書道でピースメッセージ

・つながろう CO-OP アクション（震災復興応援）

合唱・フィナーレ

虹のひろば合唱団

♪「花は咲く」「さくらよ」

「地球のうた」「にじ」♪

15:55～
16:10

福祉・介護委員会報告 組織委員会報告 地域活性化研究会報告 理事会報告

第6回福祉・介護委員会報告

開催日：2014年5月29日（木）

会 場：広島県生協連3階会議室

出席（敬称略）：盛谷、大野（広島中央保健生協）、斉藤、本浦、山本（広島医療生協）、岡崎、西谷（生協ひろしま）、高田、福島、為政（広島県生協連）

【主な内容】

2015年介護保険制度改訂と新しい地域支援事業に関して、今後どのように活動を進めていくのか協議を行い、①介護保険制度改定の内容理解する学習会を9月8日に実施、②市区町村別の生協の地域資源と背景一覧表の作成、③市町訪問を行うことを決めた。市町訪問の目的は、利用者・地域住民の権利が保証されるように市町の責任で適正に事業を組み立てるように要請すること。生協が持つ地域資源を市町にアピールし、生協に対する認知度・理解度を高めること。市町の新しい地域支援事業計画の情報収集。を目的に訪問活動を行う。地域別に主幹生協を決定し、8月には各市町と訪問日を決定することとした。

第6回組織委員会報告

開催日：2014年4月4日（金）

会 場：広島県生協連3階会議室

出席（敬称略）：佃（広島県学校生協）、檀浦（広島県高校生協）、上田順子、戸田、森島（生協ひろしま）、藤原（広島中央保健生協）、越智（日立造船因島生協）、宮澤（福山医療生協）、高田、福島、為政（広島県生協連）

【主な内容】

2014年度の平和の取り組みに関して協議した。①ピースアクションinヒロシマ（虹のひろばの構成について）、②子ども碑めぐりガイド・ヒロシマ遺跡めぐりガイド養成について、

③2014「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集いについて、④2014市民平和行進について、⑤2015NPT再検討会議の成功に向けて協議を行った。

第6回地域活性化研究会報告

開催日：2014年5月28日（水）

会 場：広島県生協連3階会議室

出席（敬称略）：国本広島市佐伯区長、佐田尾中国新聞社論説副主幹、佐々木修大准教授、丸山リエゾン地域福祉研究所代表、尾崎日本生協連福祉担当、岡崎生協ひろしま福祉事業部長、本浦広島医療生協福祉部長、高田広島県生協連専務理事、上田広島県生協連理事、福島広島県生協連事務局長

【主な内容】

地域活性化研究会は昨年9月に設置し、2013年度は調査活動中心に開催してきた。後半に向けて、今までの活動を振り返り、現状認識、問題意識を出し合い整理した。

2014年度は、学識者の助言や実践事例視察から、生協の地域活性化への関わり方と広島県で実行可能な実践モデルの提言を目的に研究を進める。ポイントとしては、

- (1) 生協が持つ社会的資源の有効活用と、これから生協がチャレンジすべき事業と活動の領域と展開について研究する。
- (2) 今まで調査した先進事例と情報提供をどう生かすか。また、地域で発生している日常生活問題をどう整理するかを研究する。
- (3) 普及学習活動と問題提起方法をどうするのか研究する。

次回研究会は、生協が積極的に地域と関わり、地域に大きく貢献している先進事例の研究として、コープおきなわの担当者をお招きし、地域の活性化と商品による地域産業の健全化モデルを研究する。

第6回理事会報告

■日時 2014年4月11日

（金）14時30分～16時

■場所 広島県生協連

3階会議室

■出席 19名中15名出席

（理事17名中13名出席、監事2名中2名出席）

（出席理事）岡村、高田、難波、盛谷、岡野、横山、斉藤、上田、近江、川本、高橋、武田、金築

（出席監事）小泉、花田

（オブザーバー）堀

■議決事項

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

（第1号議案）2014年度広島県生協連合会の通常総会上程議案と当日運営について

（第2号議案）通常総会各上程議案について

①総会第1号議案

2013年度活動報告ならびに決算報告承認と剰余金処分案承認の件について

②総会第2号議案

2014年度活動方針ならびに収支予算案決定の件について

③総会第3号議案

役員補充選任の件について

④総会第4号議案

役員報酬決定の件について

（第3号議案）他団体の公職承

認の件について

①広島県医療安全推進協議会委員の委嘱について

②広島県再生可能エネルギー等導入推進基金の事業実施における事業評価委員の委嘱について

③広島県労働者福祉協議会役員の任期満了に伴う役員推薦について、

④広島県共同募金会配分委員の委嘱について

■協議・報告事項

各事項について資料に基づき提案説明を行い、協議の結果、全事項について確認した。

（第4号議案）

一般活動報告について

①2014ピースアクションinヒロシマ第2回実行委員会報告

告

②2014「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い実行委員会の進捗状況報告と当日の役割分担について

③地域活性化研究会中間報告

④第5回福祉・介護委員会報告及び広島県介護保険課との懇談会報告

⑤初級職員研修会報告

⑥審議会報告（広島県消費生活審議会報告）



「孫たち」に「戦争体験」を「伝えたい」 ～諸氏の教えを乞う～

日々のことから

広島中央保健生協理事長
消費者ネット広島理事長

吉富啓一郎

よしとみ けいいちろう

1938年5月5日生 長崎県
九州大学大学院教育学研究科 博士
課程中退。九州大学・高知大学・県
立広島女子大学・龍谷大学を歴任、
県立広島女子大学名誉教授

「平和意識の核心」は「戦争に対する想像力を育むこと」である（歴史学者・吉田裕氏的主張）。私もそう考える一人です。この「想像力」は、①人と人が殺し殺される関係性の中に投げ込まれる過酷な現実に対する想像力、②軍事上の必要性を理由にして一般市民の被害が正当化されていく戦場の現実に対する想像力を意味しています。私は

日ごろ「アニメやマンガ、ゲームの擬似戦争体験」に取り囲まれている「私の孫たち」に「戦争体験を継承していくこと」の困難さを痛感しています。この困難を切り開いていくための「具体的な方法」は何か。

*

このことに応えるには、「被害者であると同時に加害者でもある」という重層的な関係性に常に目を配りながら「語ること」（記録すること）が必要不可欠です。それに最もふさわしいのは「兵士としての戦争体験」です。しかし、「兵士としての戦争体験」を「語ること」（記録すること）は容易ならざることと思われます。しかも、年齢的にも語る者がいなくなりつつあります。であれば、「聞き書き」の手法によって「記録化

が急がれます。同時に過去に書かれた「手記」を「収集」し、子どもたちに「伝える」ことです。この類のものは入手困難です。

*

ところで、第二次世界大戦の犠牲者（概数）は、世界中で6000万人、アジアで2000万人、日本で310万人（うち兵員230万人、一般市民80万人）といわれています。現憲法は、このような多くの人々の「血」の犠牲の上に制定されました。「二度と戦争をしない」と。今、「集団的自衛権の行使容認」（日本を戦争ができる国にすること）に向けた「解釈改憲」の動きが加速しています。

*

私に何ができるか。私自身は「兵士としての戦争体験」は勿論ない。伝え聞いたこともないに等しい。父が出征した記憶も確かでない。ただ終戦になってもなかなか帰還しない父を母が心配していたことは明瞭に覚えていてます。それほど母の心配が大きかったであろうと推察されます。父はかなり日にちがたつてから帰還しました。橋の下に寝たと言っていた記憶があ

ります。「どこで」「何をしたか」父から聞く機会がなかったし、父から積極的に語ることもありませんでした。

戦死した親族は父方に2人います。父の弟（海軍、フィリピン沖で撃沈）と父の兄の3男（父の甥、戦死の状況は不明）。母方には戦死者はいません。



2013 子ども碑めぐりガイド

既に述べたように、私には「兵士としての戦争体験」はありません。あるのは、佐世保市への空襲、B29の爆音、空襲警報のサイレン、停電（消灯）、防空頭巾、防空壕への避難等です。父から「兵士としての戦争体験」をじっくり聞いておけばと悔やまれます。

このような状況なので、読者諸氏の教えを切に乞う次第です。

【編集室から】

デザイナーとして広島市の広告代理店に入社して、初めての大きな仕事に携わったのが広島平和記念館（現平和記念資料館東棟）の核兵器に関する展示説明パネルの制作だった。その中で原爆・核兵器に関する多くのことを学んだ。そして、数年を経ずして、今度は島根原子力発電所のPRホルルの展示パネルのデザインを手がけることに。そこでは、資源を持たない日本にとって、原子力発電がいかに優れたものであるかを強調している現実があった。

そして40数年を経た今日、世界は未だ核兵器の恐怖から抜け出せないまま……。一部の国は、国民を飢餓に苦しめながら、核武装へと突き進んでいる。ホモ・サピエンスは考える能力を持っているはずなのに、少しも反省していないようだ。また大震災は、原子力の危険性を世界中に知らしめたというのに、国は原子力発電の再稼働に向けて突き進む。ヒロシマは、核兵器と核エネルギーの恐ろしさを声を上げて叫び続ける。（Y）

平和とよりよき生活をめざして



広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp